

手彫12銭（東回り便）

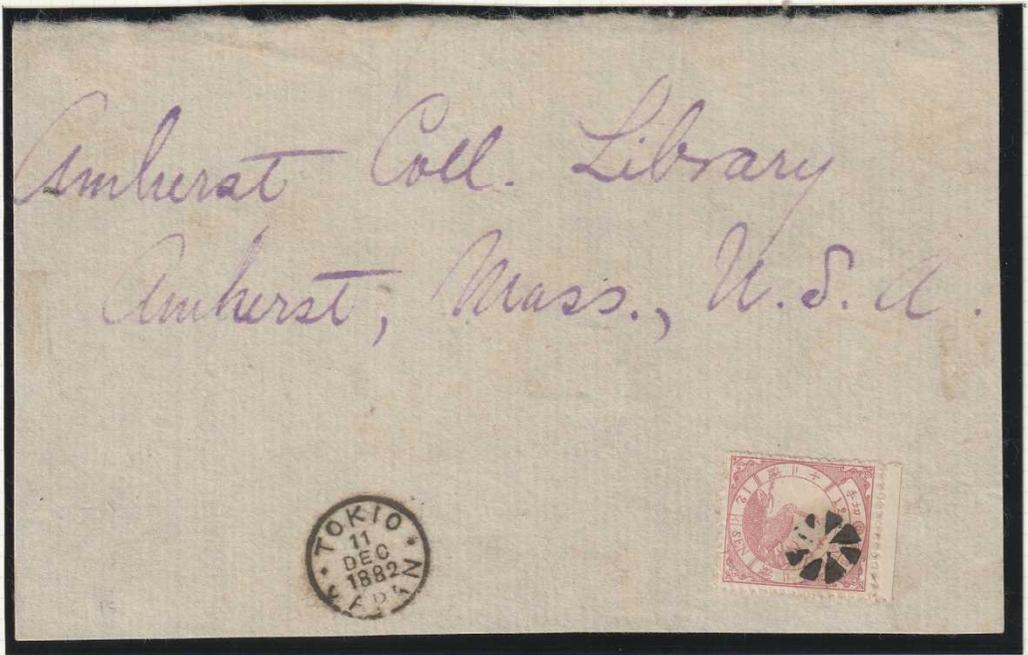
川原 啓一郎

手彫鳥12銭貼りに1882年12月11日「TOKIO」の20ミリ印と小型の黒のアステリクス抹消印が押された外信エンタイヤ（フロント）である。

この時期のアメリカ宛料金は、書状が15グラム毎に5銭、印刷物が50グラム毎に1銭、商品見本が100グラム迄が2銭で50グラムを超える毎に1銭となっていた。

このエンタイヤに貼られた料金から考えられるのは、①書状2倍重量便の過貼、②印刷物又は商品見本の550グラム超600グラム迄の郵送であるが、宛先がアマースト大学図書館であることから印刷物、もしかしたら日本で発行された本の郵送に使われたのではないだろうか。

アマースト大学は1821年創立の現在でも入学難関大学として知られ、日本人卒業業者には第1次文化人切手に登場する教育者の新島襄（1870年卒）、宗教者の内村鑑三（1887年卒）などがある。



参考

西野茂雄著の「外信印ハンドブック」によると、東京の小型アステリクス抹消印の登場は1877年、終了が1885年、また20ミリ印は1882年から1889年が使用期間とある。